

4 まとめ ～潜在的利用者層へのアプローチの視点と方法～

2及び3の調査結果を踏まえ、主要項目について「職業」「性」「年齢」での3重クロス集計を行い、特徴的な階層を絞り込むことを試み、階層別のアプローチなどを分析した。

(1) 都立図書館の認知状況から

「中央図書館を知っている」は、潜在ユーザー全体では、11.4%となっているが、「有職、女性70歳以上」(27.3%)と2割を超え、「有職、女性60歳代」、「無職、男性50歳代」、「無職、男性60歳代」で18.8%と並んでいる。(表14)

一方、「多摩図書館を知っている」は、潜在ユーザー全体では、5.3%となっているが、「学生、女性16歳～19歳」(11.4%)と1割を超えている。(同)

両図書館の認知状況をみると対照的であり、特に多摩図書館の高年齢層への認知度拡大や機能・サービスの理解促進に向けた取り組みが重要である。(同)

一方、「両方とも知らない」は潜在ユーザー全体では、85.3%で、「無職、女性20歳代」(96.4%)、「学生、女性20歳代」(93.8%)、「無職、女性30歳代」(92.6%)と、さらに高くなる。(同)

また、メディアの中では、SNSの年齢別利用状況をみると、「毎日みる」が16歳～19歳で8割を超え、20歳代で7割を超えているように年代間の差異が大きい。若い年齢層に広報するには、ホームページに加えてSNS等も利用していくなど、年齢層にあったメディアを利用した広報・PRが望まれる。(図62)

表14 都立図書館の認知状況

・ 中央図書館を認知

(P61表9抜粋)

潜在ユーザー全体 (n=3,303)	11.4%
有職、女性70歳以上 (n=33)	27.3%
有職、女性60歳代 (n=80)	18.8%
無職、男性50歳代 (n=32)	18.8%
無職、男性60歳代 (n=96)	18.8%

・ 多摩図書館を認知

(P61表9抜粋)

潜在ユーザー全体 (n=3,303)	5.3%
学生、女性16歳～19歳 (n=220)	11.4%
無職、男性50歳代 (n=32)	9.4%
学生、男性16歳～19歳 (n=77)	9.1%

・ どちらも非認知

(P61表9抜粋)

潜在ユーザー全体 (n=3,303)	85.3%
無職、女性20歳代 (n=56)	96.4%
学生、女性20歳代 (n=32)	93.8%
無職、女性30歳代 (n=68)	92.6%

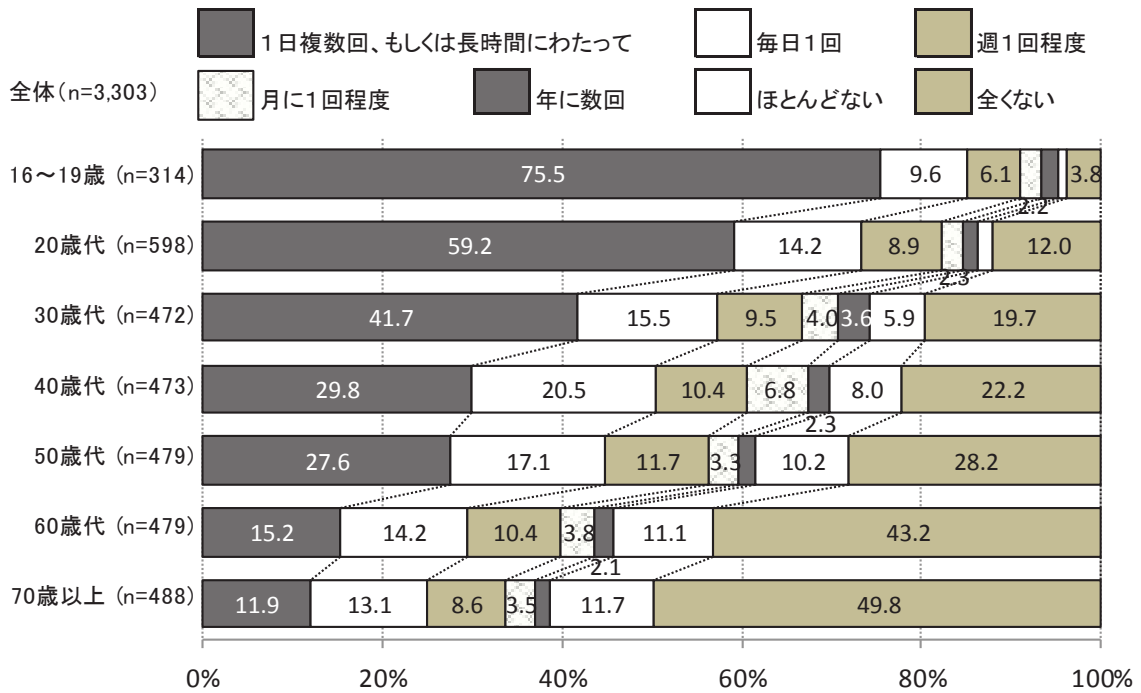


図 62 メディア別の利用頻度／SNS 【年齢別】

(2) 都立図書館を1年以内に利用しない理由から

① 都立中央図書館

都立中央図書館を知っている人のうち、この1年以内に利用したことがない人（一度も利用したことのない人と以前は利用していた人）の利用しない理由は、「遠い」が58.8%、「区市町村立などの図書館を利用する」が29.7%、「交通が不便」が29.1%となっている。（表15）

高い割合の項目を性別でみると、「遠い」（男性52.7%、女性64.8%）、「区市町村立などの図書館を利用する」（男性23.9%、女性35.2%）と女性での割合が男性での割合より10ポイント以上高くなっており、女性のニーズを踏まえた取組の展開が望まれる。（同）

表15 都立中央図書館を知っている人のうち、この1年以内に都立中央図書館を利用したことがない人の利用しない理由（複数回答）

	回答対象者全体 n=381	うち男性 n=188	うち女性 n=193
遠い	58.8%	52.7%	64.8%
区市町村立などの図書館を利用する	29.7%	23.9%	35.2%
交通が不便	29.1%	30.9%	27.5%
インターネットや電子書籍の情報で十分	14.7%	14.9%	14.5%
本や雑誌は自分で購入する	12.1%	11.7%	12.4%
開館時間がライフスタイルに合っていない	10.0%	11.2%	8.8%
どのような資料があるかわからない	8.1%	8.5%	7.8%
図書館に行かなくても利用できるサービスを知らなかったから	7.6%	6.9%	8.3%
必要な（興味がある）資料がない	6.0%	7.4%	4.7%
その他	2.9%	4.8%	1.0%

② 都立多摩図書館

都立多摩図書館を知っている人のうち、この1年以内に利用したことがない人（一度も利用したことのない人と以前は利用していた人）の利用しない理由は、「遠い」が59.4%、「交通が不便」が26.0%、「区市町村立などの図書館を利用する」が24.0%となっており、上位3つは、順位は違うが、都立中央図書館と同じ項目が挙げられた。中央、多摩ともに「遠い」、「交通が不便」は立地条件で簡単には解決しない課題であることから、個々の属性に合ったメディアでの広報を通じて、区市町村立との機能、役割分担の認知の向上を図っていくことが重要である。（表16）

表16 都立多摩図書館を知っている人のうち、この1年以内に都立多摩図書館を利用したことがない人の利用しない理由（複数回答）

	回答対象者全体 n=192	うち男性 n=101	うち女性 n=91
遠い	59.4%	54.5%	64.8%
交通が不便	26.0%	23.8%	28.6%
区市町村立などの図書館を利用する	24.0%	25.7%	22.0%
開館時間がライフスタイルに合っていない	10.9%	10.9%	11.0%
どのような資料があるかわからない	9.9%	8.9%	11.0%
必要な（興味がある）資料がない	9.4%	12.9%	5.5%
インターネットや電子書籍の情報で十分	9.4%	9.9%	8.8%
本や雑誌は自分で購入する	8.9%	8.9%	8.8%
図書館に行かなくても利用できるサービスを知らなかったから	6.8%	5.0%	8.8%
その他	1.6%	2.0%	1.1%

③ 女性のニーズの把握

都立図書館をこの1年以内に利用しなかった理由を性別でみると、女性と男性で違いがみられた。都立中央図書館をこの1年以内に利用しなかった理由をみると、「遠い」(男性で52.7%、女性で64.8%)、「区市町村立などの図書館を利用する」(男性で23.9%、女性で35.2%)は、女性と男性で10ポイント以上の差があった。また、都立多摩図書館をこの1年以内に利用しなかった理由をみると、「遠い」(男性で54.5%、女性で64.8%)は、女性と男性で10ポイント以上の差があった。(表15、表16、表17)

表17 都立図書館を知っている女性のうち、この1年以内にその都立図書館を利用したことがない人の、利用しない理由(複数回答)【対象:女性】

都立中央図書館 (P76 表15抜粋)		都立多摩図書館 (P76 表16抜粋)	
	n=193		n=91
遠い	64.8%	遠い	64.8%
区市町村立などの図書館を利用する	35.2%	交通が不便	28.6%
交通が不便	27.5%	区市町村立などの図書館を利用する	22.0%
インターネットや電子書籍の情報で十分	14.5%	開館時間がライフスタイルに合っていない	11.0%
本や雑誌は自分で購入する	12.4%	どのような資料があるかわからない	11.0%

また、「以前は身近な図書館を利用していたがここ1年以内は身近な図書館を利用していない理由」を潜在ユーザー全体と女性のみで比較すると、「仕事や子育て等で多忙になった」は順位が上がり(5位から3位に)、また、比率も上回っており(14.5%から16.7%に)(表18)、身近な図書館の利用が難しい状況にある女性層が存在すると考えられる。

表18 以前は身近な図書館を利用していたが、ここ1年以内は利用していない理由(複数回答)

身近な図書館	全体 (P40 図38抜粋)			女性 (初出)	
	n=393	順位		n=198	順位
読みたい本や雑誌は購入する	27.7%	1	→	読みたい本や雑誌は購入する	27.3% 1
読みたい資料がない	21.4%	2	→	読みたい資料がない	19.7% 2
開館時間がライフスタイルに合っていない	15.0%	3	↔	仕事や子育て等で多忙になった	16.7% 3
ウェブサイトや電子書籍の情報で十分	14.8%	4	↔	開館時間がライフスタイルに合っていない	13.6% 4
仕事や子育て等で多忙になった	14.5%	5	↔	ウェブサイトや電子書籍の情報で十分	13.6% 4

今後、女性の利用促進を図る際には、年齢、職業の属性や生活実態も踏まえた上で、自宅からでも都立図書館を利用できる非来館型サービスの広報を行っていくことが重要である。

(3) 充実・強化を希望する事項（図書等資料、サービス、施設・設備）から

① 図書等資料（3つまで回答可）

都立図書館で充実・強化を希望する図書等資料について、滞在ユーザー全体でみると、「一般書」が41.1%で最も割合が高くなっており、「各分野の新しい本」(29.2%)、「新しい分野の専門書・研究書」(18.1%)、「江戸・東京の歴史・文化に関する資料」(17.2%)、「閲覧できる電子書籍」(13.8%)が続いている。(表19)

「学生、男性20歳代」では「各分野の新しい本」が50.5%で「一般書」よりも高い割合になっている。各分野の新しい本は、館内では新着図書コーナーを設置、ホームページでも新着図書として周知しているが、より一層の周知・広報が重要である。(同)

「有職、男性70歳代以上」で「江戸・東京の歴史・文化に関する資料」が40.9%と「一般書」等よりも高い割合になっている。「江戸・東京」に関する資料は、都立の役割として積極的に収集しており、ニーズもあることから、今後も収集を継続することが必要である。(同)

「閲覧できる電子図書」は「無職、男性40歳代～50歳代」で上位に入っており、電子図書のタイトル数の増加と閲覧環境の整備の検討が必要であると考えられる。(同)

「新しい分野の専門書・研究書」は、どの年代でも上位に入っており、とりわけ「無職、男性30歳代」で43.5%となっているため、継続して収集し、整備を進めていく必要がある。(同)

表19 充実・強化を希望する図書等資料（全体と特徴的な階層）

・ 潜在ユーザー全体 (P68図59抜粋)		・ 学生、男性20歳代 (P69表11抜粋)	
	n=3,303		n=93
一般書	41.1%	各分野の新しい本	50.5%
各分野の新しい本	29.2%	一般書	40.9%
新しい分野の専門書・研究書	18.1%	新しい分野の専門書・研究書	26.9%
江戸・東京の歴史・文化に関する資料	17.2%	雑誌	15.1%
閲覧できる電子書籍	13.8%	閲覧できる電子書籍	14.0%

・ 有職、男性70歳代以上 (P69表11抜粋)		・ 無職、男性40歳代 (P69表11抜粋)	
	n=54		n=20
江戸・東京の歴史・文化に関する資料	40.9%	閲覧できる電子書籍	30.0%
一般書	28.5%	一般書	25.0%
各分野の新しい本	26.9%	各分野の新しい本	25.0%
新しい分野の専門書・研究書	21.5%	雑誌	25.0%
音声や映像の資料	11.3%	新しい分野の専門書・研究書	15.0%
		新聞	15.0%

・ 無職、男性30歳代 (P69表11抜粋)	
	n=23
各分野の新しい本	47.8%
新しい分野の専門書・研究書	43.5%
一般書	26.1%
閲覧できる電子書籍	21.7%
江戸・東京の歴史・文化に関する資料	17.4%

② サービス（3つまで回答可）

充実・強化を希望するサービスについて、潜在ユーザー全体でみると、「蔵書検索」(28.9%)、「ホームページ」(27.3%)、「デジタル化した資料の提供」(22.3%)が上位3つである。

(表 20)

「ホームページ」は「無職、男性 60 歳代」で 37.5%となり、「蔵書検索」よりも高い割合になっている。「デジタル化した資料の提供」は「有職、男性 70 歳代以上」で 37.0%と高い割合になっており、ネット、オンラインのサービスの提供について、引き続き取り組む必要があると考えられる。(同)

一方、「資料の探し方等の手引きの提供」、「資料相談（レファレンス）」のサービスも、一定の割合を保っており、基盤的なサービスも継続する必要があると考えられる。(同)

「SNS等を利用した都立図書館の情報発信」が「学生、女性 16 歳～19 歳」で 45.5%と高い割合になっている。調査手段としての媒体の利用状況を年齢別にみると、「16 歳～19 歳」(46.8%)と「20 歳代」(39.1%)と、SNSはインターネットに次いで、利用する割合が高い。それぞれのメディアの利用状況に則した情報発信の強化が必要であると考えられる。(表 20、表 21)

表 20 充実・強化を希望するサービス（全体と特徴的な階層）

・ 潜在ユーザー全体 (P70図60抜粋)		・ 無職、男性60歳代 (P71表12抜粋)	
	n=3,303		n=96
蔵書検索（都立及び区市町村等の図書館）	28.9%	ホームページ	37.5%
ホームページ	27.3%	蔵書検索（都立及び区市町村等の図書館）	34.4%
デジタル化した資料の提供	22.3%	デジタル化した資料の提供	26.0%
資料の探し方等の手引きの提供	18.6%	資料の探し方等の手引きの提供	21.9%
SNS等を利用した都立図書館の情報発信	16.2%	資料相談（レファレンス）	15.6%

・ 有職、男性70歳代以上 (P71表12抜粋)		・ 学生、女性16歳～19歳 (P71表12抜粋)	
	n=54		n=220
デジタル化した資料の提供	37.0%	SNS等を利用した都立図書館の情報発信	45.5%
蔵書検索（都立及び区市町村等の図書館）	22.2%	ホームページ	28.6%
ホームページ	22.2%	蔵書検索（都立及び区市町村等の図書館）	25.0%
資料相談（レファレンス）	20.4%	デジタル化した資料の提供	18.6%
資料の探し方等の手引きの提供	20.4%	資料の探し方等の手引きの提供	18.6%

表 21 調査手段としての媒体の利用状況【年齢別】（初出）

単位：%	n	テレビ	ラジオ	新聞	書籍	雑誌	インターネット	SNS	その他
潜在ユーザー全体	3,303	38.3	5.4	19.4	19.9	7.9	86.7	18.2	0.4
16歳～19歳	314	34.7	3.2	8.9	15.3	6.1	79.9	46.8	0.0
20歳代	598	35.3	3.5	7.5	19.2	9.4	82.8	39.1	0.3
30歳代	472	37.7	5.9	11.9	19.3	10.2	85.8	20.8	1.1
40歳代	473	41.2	6.3	16.1	22.0	11.4	89.9	12.1	0.2
50歳代	479	33.6	5.8	21.9	18.2	7.1	91.4	8.4	0.6
60歳代	479	44.9	6.1	29.9	21.9	6.5	89.1	2.1	0.6
70歳代以上	488	40.4	6.8	38.5	21.9	3.9	86.5	2.9	0.0

③ 施設・設備 (3つまで回答可)

充実・強化を希望する施設・設備について、潜在ユーザー全体でみると、「じっくり調べものができる閲覧席」(46.7%)、「静かに読書ができる閲覧席」(37.6%)、「持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席」(31.1%)「カフェ・食堂のメニューの充実」(30.2%)が高い割合となった。(表 22)

閲覧席については、潜在ユーザー全体で、「じっくり調べものができる閲覧席」が 46.7%を占める一方で、「無職、女性 40 歳代」では「静かに読書ができる閲覧席」が 49.4%と高い割合となり、「学生、男性 20 歳代」では「持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席」が「じっくり調べものができる閲覧席」と 43.0%で並んでいるように、閲覧席にも多様なニーズがある。(同)

「無職、女性 20 歳代」で「カフェ・食堂の充実」が 48.2%と高い割合になっており、若年層は図書館に付随する環境の快適さを求めているようである。(同)

「学生」の充実・強化を希望する施設・設備をみても、多様な利用方法を期待していることがわかり、今後はこれらを踏まえて施設・設備を整備していく必要がある。(図 63)

表 22 充実・強化を希望する施設・設備 (全体と特徴的な階層)

・ 潜在ユーザー全体 (P72図61抜粋)		・ 無職、女性20歳代 (P73表13抜粋)	
	n=3,303		n=56
じっくり調べものができる閲覧席	46.7%	カフェ・食堂のメニューの充実	48.2%
静かに読書ができる閲覧席	37.6%	じっくり調べものができる閲覧席	41.1%
持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席	31.1%	静かに読書ができる閲覧席	37.5%
カフェ・食堂のメニューの充実	30.2%	持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席	30.4%
音声・映像資料をじっくり視聴できる閲覧席	15.9%	分かりやすい館内表示・サイン	14.3%

・ 無職、女性40歳代 (P73表13抜粋)		・ 学生、男性20歳代 (P73表13抜粋)	
	n=83		n=93
静かに読書ができる閲覧席	49.4%	じっくり調べものができる閲覧席	43.0%
じっくり調べものができる閲覧席	44.6%	持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席	43.0%
カフェ・食堂のメニューの充実	36.1%	カフェ・食堂のメニューの充実	33.3%
持込みのパソコンやタブレット等が利用できる閲覧席	28.9%	静かに読書ができる閲覧席	32.3%
施設内のバリアフリー	14.5%	グループで話し合い等ができるミーティングスペース	16.1%

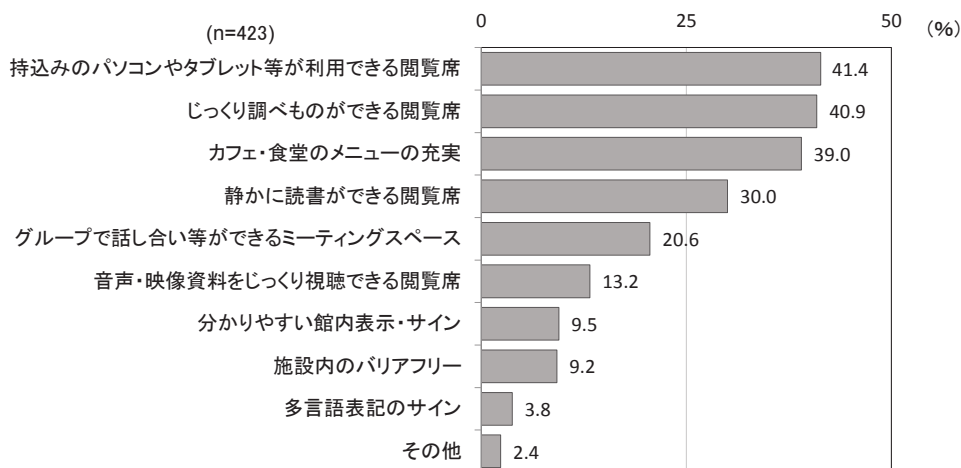


図 63 学生の充実・強化を希望する施設・設備 【対象：学生】 (初出)

(4) 設問間のクロス集計分析

さらに、潜在ユーザーのニーズを把握するため、主要設問間でのクロス集計を試みた。そのために以下の②③は潜在ユーザーに加え既存ユーザーも対象として分析を行った。

① 身近な図書館の有無と都立図書館の認知状況

身近な図書館の有無と都立図書館の認知状況の関連性をみると、潜在ユーザー全体では、「1館以上知っている」は14.7%であったが、「身近な図書館あり」では20.4%となり、「身近な図書館なし」では10.0%となっている。(図64)

「身近な図書館あり」の方が都立図書館の認知度が高いことから、都立と区市町村立図書館合同の認知度向上キャンペーンや、区市町村立図書館のイベント等への協力や連携事業の展開を図ることが都立図書館の認知度向上に効果があると考えられる。(図64、表23)

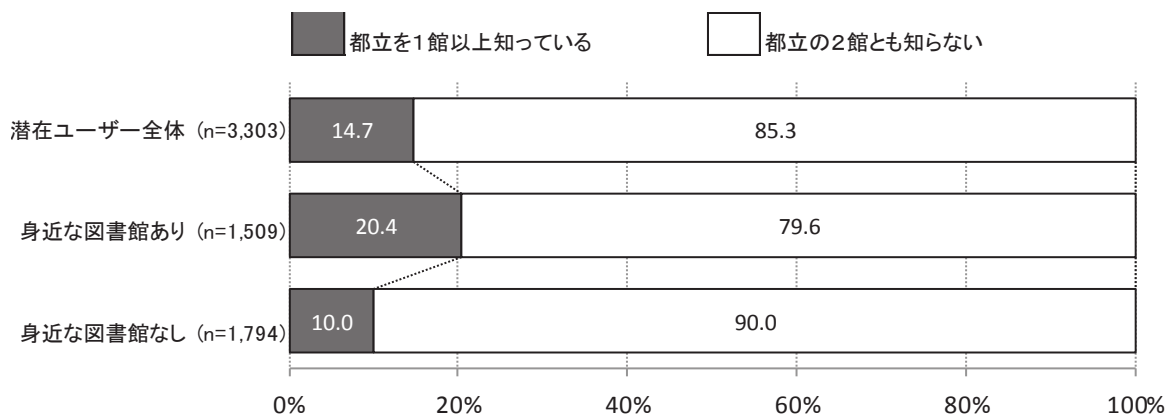


図64 身近な図書館の有無と都立図書館の認知状況

表23 身近な図書館の内訳

(n=1,618)		
種別	件数	%
都内区市町村立図書館	1,434	88.6
国立国会図書館	10	0.6
都内大学図書館	54	3.3
都内専門図書館	4	0.2
その他(他県図書館など)	100	6.2
対象外	16	1.0
計	1,618	100.0

② 図書の入手方法と都立図書館の利用状況

潜在ユーザーと既存ユーザーを対象とした集計

「図書の入手方法」と「都立中央図書館の利用状況」の関連性をみると、「1年以内に利用した」は、「オンラインでダウンロード購入」(51.4%)と「周囲の人に借りる」(43.3%)で高い割合になっている。(図 65)

「図書の入手方法」と「都立多摩図書館の利用状況」の関連性をみると、「1年以内に利用した」は、「オンラインでダウンロード購入」(47.9%)と「オンラインで図書を購入」(37.1%)で高い割合になっている。(図 66)

「オンラインでダウンロード購入」を回答した性別・年齢別、職業別の階層をみると、性別、職業別にかかわらず、16歳～19歳、20歳代、30歳代で高い傾向がみられた。(P35の表3をP83に再掲)

「オンラインでダウンロード購入」者の都立図書館利用度が高くなる理由は、より詳細な調査・分析が必要であるが、オンラインでは入手できない図書等が都立図書館に所蔵されていると推測可能であり、引き続き蔵書の充実が期待される。

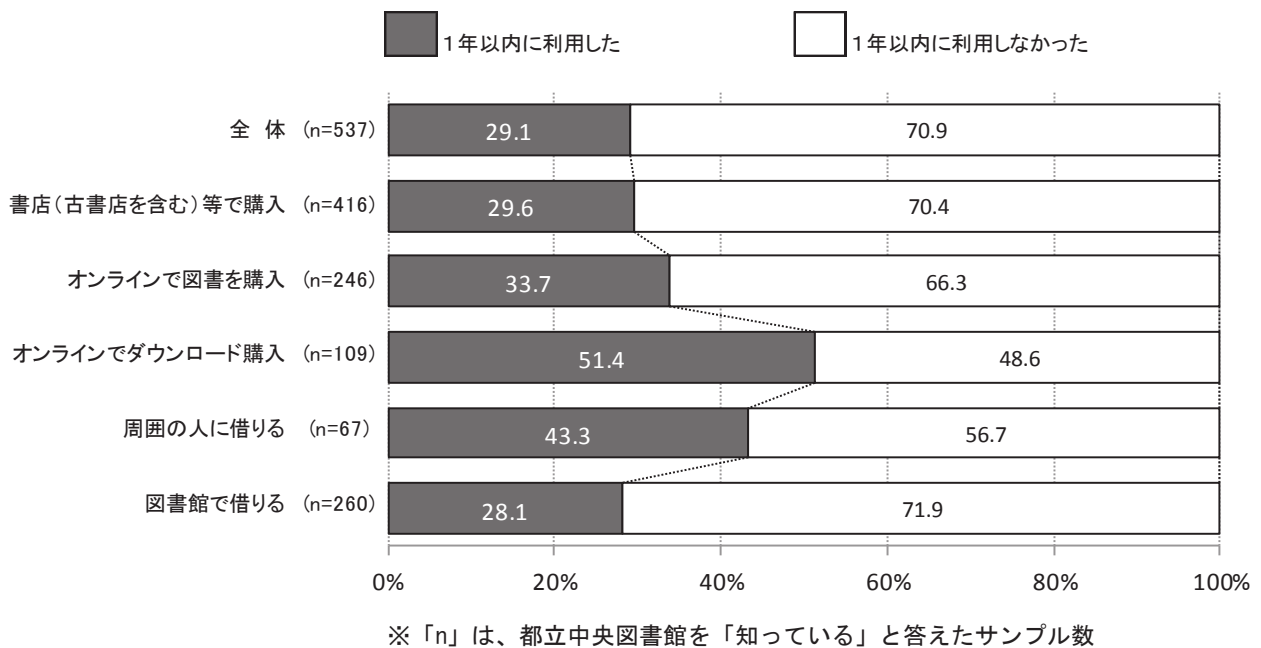


図 65 図書の入手方法と都立中央図書館の利用状況【潜在ユーザー＋既存ユーザー】

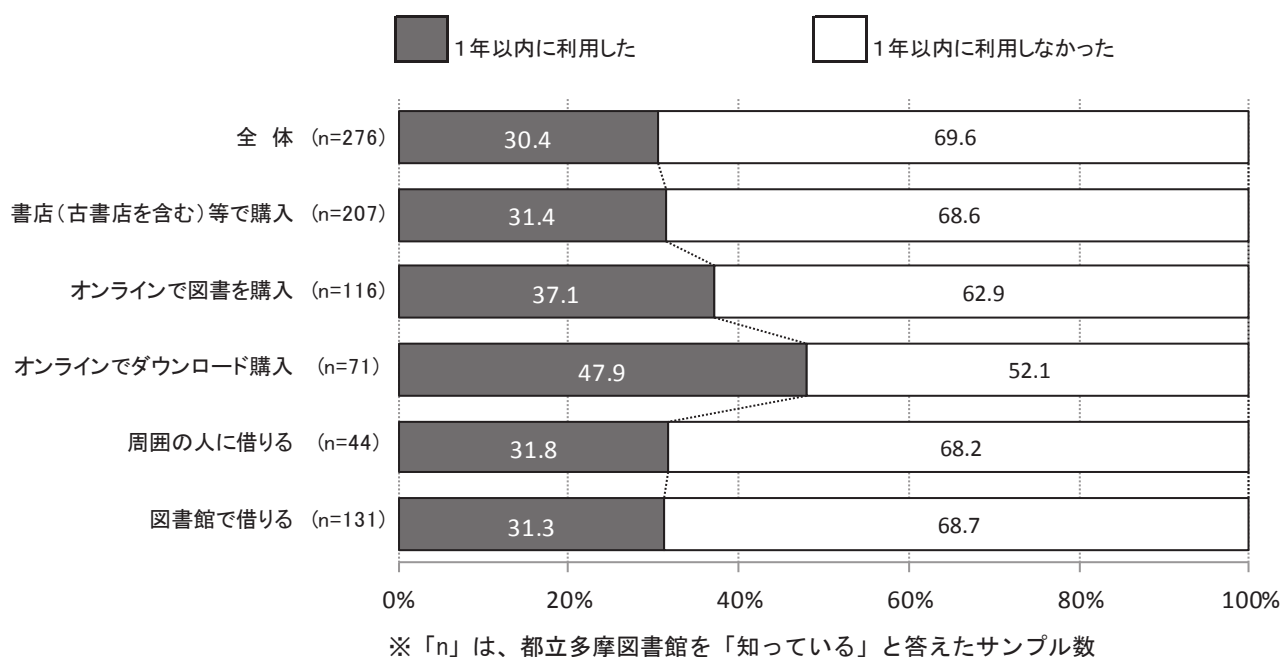


図 66 図書の入手方法と都立多摩図書館の利用状況【潜在ユーザー+既存ユーザー】

表3 図書の入手方法【性別・年齢別、職業別】 (再掲)

		n	入書店 (古書店を含む) 等で購	オン ライ ン で 図 書 を 購 入	入 オン ライ ン で ダ ウ ン ロ ー ド 購	周 圍 の 人 に 借 り る	図 書 館 で 借 り る	そ の 他
上段：実数 下段：%								
全 体		3,500	2,428 69.4	1,085 31.0	492 14.1	294 8.4	1,229 35.1	115 3.3
有 職	男性 16歳～19歳	3	-	33.3	-	-	66.7	-
	男性 20歳代	256	72.3	32.4	21.9	10.2	24.2	2.3
	男性 30歳代	223	68.6	37.2	19.7	9.0	18.4	0.4
	男性 40歳代	228	69.3	38.6	16.7	8.3	30.7	3.9
	男性 50歳代	215	67.9	37.7	20.5	3.3	21.9	2.8
	男性 60歳代	153	71.2	34.0	12.4	3.3	38.6	4.6
	男性 70歳代以上	59	79.7	28.8	8.5	3.4	28.8	1.7
	女性 16歳～19歳	8	62.5	25.0	12.5	25.0	50.0	-
	女性 20歳代	159	77.4	37.7	22.6	20.1	20.8	2.5
	女性 30歳代	182	69.2	35.2	16.5	12.6	38.5	4.9
	女性 40歳代	162	69.1	37.7	17.3	5.6	42.0	3.1
	女性 50歳代	128	68.8	30.5	5.5	3.1	40.6	2.3
	女性 60歳代	86	68.6	32.6	7.0	7.0	37.2	5.8
女性 70歳代以上	33	66.7	42.4	6.1	-	24.2	9.1	
無 職	男性 16歳～19歳	2	50.0	-	-	-	50.0	-
	男性 20歳代	47	70.2	29.8	12.8	6.4	34.0	4.3
	男性 30歳代	26	73.1	50.0	30.8	3.8	30.8	-
	男性 40歳代	22	68.2	27.3	18.2	-	22.7	9.1
	男性 50歳代	35	71.4	40.0	17.1	2.9	31.4	-
	男性 60歳代	97	73.2	30.9	10.3	3.1	35.1	4.1
	男性 70歳代以上	191	69.6	26.7	5.8	3.1	46.1	4.2
	女性 16歳～19歳	5	60.0	-	40.0	60.0	40.0	-
	女性 20歳代	58	74.1	25.9	17.2	12.1	34.5	1.7
	女性 30歳代	68	73.5	26.5	16.2	13.2	22.1	2.9
	女性 40歳代	88	70.5	38.6	14.8	4.5	44.3	2.3
	女性 50歳代	122	71.3	30.3	7.4	5.7	37.7	4.1
	女性 60歳代	164	64.0	28.7	4.3	4.9	48.8	4.9
女性 70歳代以上	217	57.1	20.7	2.8	7.8	50.7	6.0	
学 生	男性 16歳～19歳	88	67.0	21.6	13.6	6.8	29.5	1.1
	男性 20歳代	104	71.2	27.9	22.1	12.5	44.2	1.9
	男性 30歳代	1	100.0	-	-	-	-	-
	女性 16歳～19歳	237	70.9	14.8	14.8	20.7	44.3	2.1
	女性 20歳代	33	66.7	15.2	9.1	6.1	36.4	3.0

※「オンラインでダウンロード購入」で20%以上を網掛け

③ 各メディアの情報に対する信頼度と都立図書館の利用状況

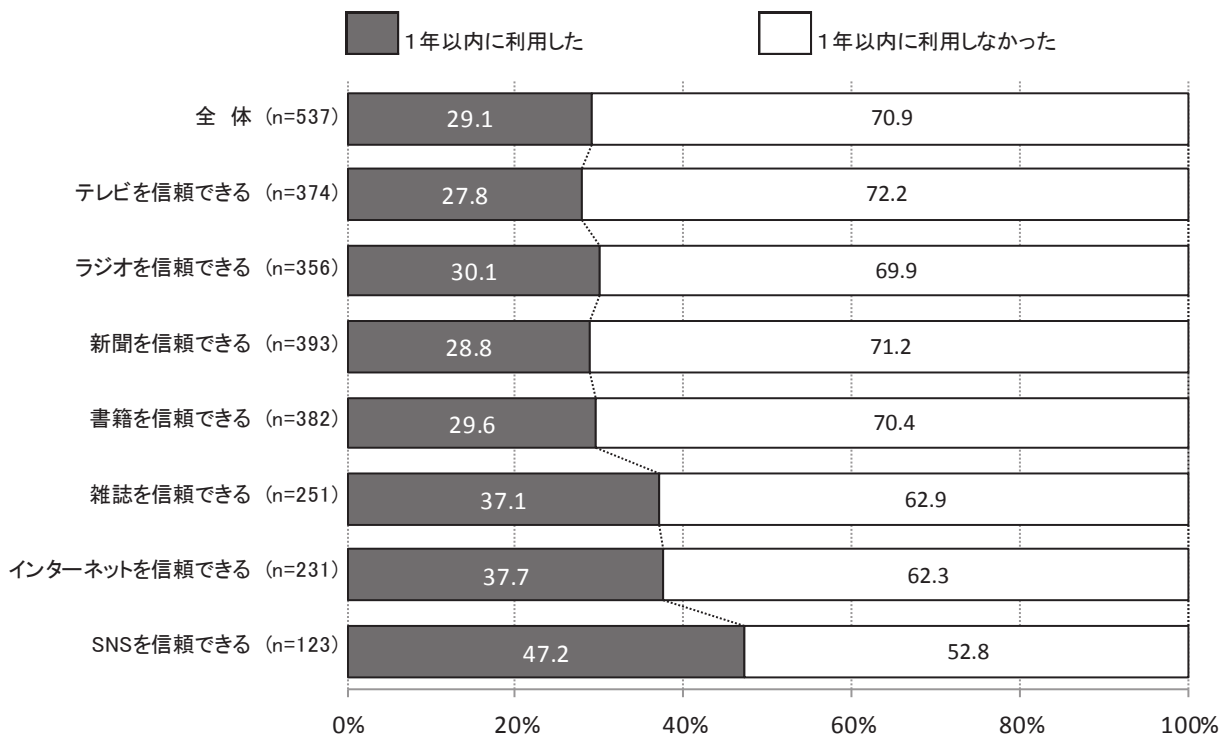
潜在ユーザーと既存ユーザーを対象とした集計

各メディアの情報に対する信頼度と都立中央図書館の利用状況との関連性をみると、「1年以内に利用した」は、「SNSを信頼できる」(47.2%)、「インターネットを信頼できる」(37.7%)、「雑誌を信頼できる」(37.1%)で3割を超えている。(図67)

各メディアの情報に対する信頼度と都立多摩図書館の利用状況との関連性をみると、「1年以内に利用した」は、「SNSを信頼できる」(50.0%)、「インターネットを信頼できる」(41.9%)で4割を超える高い割合となっている。(図68)

一方、SNSに対する信頼度を、性別・年齢別、職業別でみると、性別では女性のほうがやや高く、年齢別では若年層で高く、職業別では大きな差がないという結果であった。(信頼度は「非常に信頼できる」と「ある程度信頼できる」の割合の計で測った。) (図12をP86に再掲)

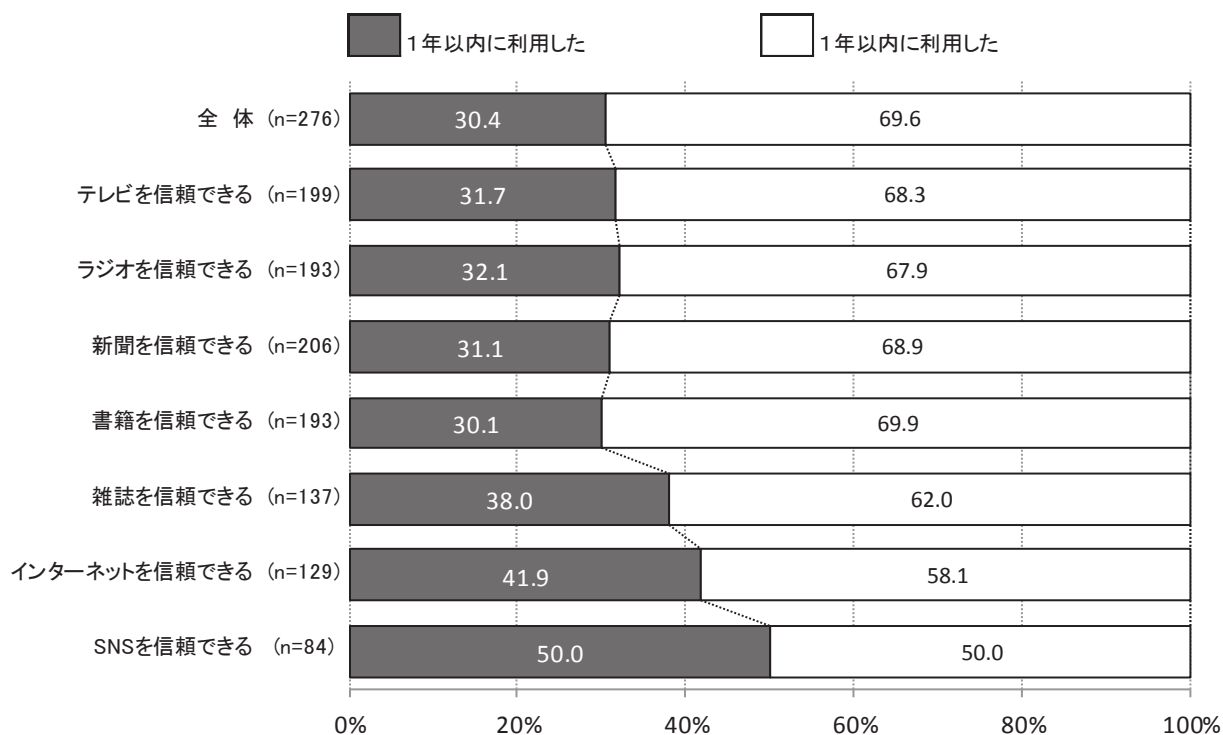
「学生、女性16歳～19歳」と「無職、女性20歳代」は、充実・強化を希望するサービスで、「SNS等を利用した都立図書館の情報発信」を多く挙げており、若年層の女性の認知度向上や利用促進には、SNSによる情報発信が適していると考えられる。(P71の表12)



※「n」は、都立中央図書館を「知っている」と答えたサンプル数

(注)「各メディアを信頼できる」は、「非常に信頼できる」と「ある程度信頼できる」を加えた割合

図67 各メディアの情報の信頼度と都立中央図書館の利用状況【潜在ユーザー+既存ユーザー】



※「n」は、都立多摩図書館を「知っている」と答えたサンプル数

(注)「各メディアを信頼できる」は、「非常に信頼できる」と「ある程度信頼できる」を加えた割合

図 68 各メディアの情報の信頼度と都立多摩図書館の利用状況【潜在ユーザー+既存ユーザー】

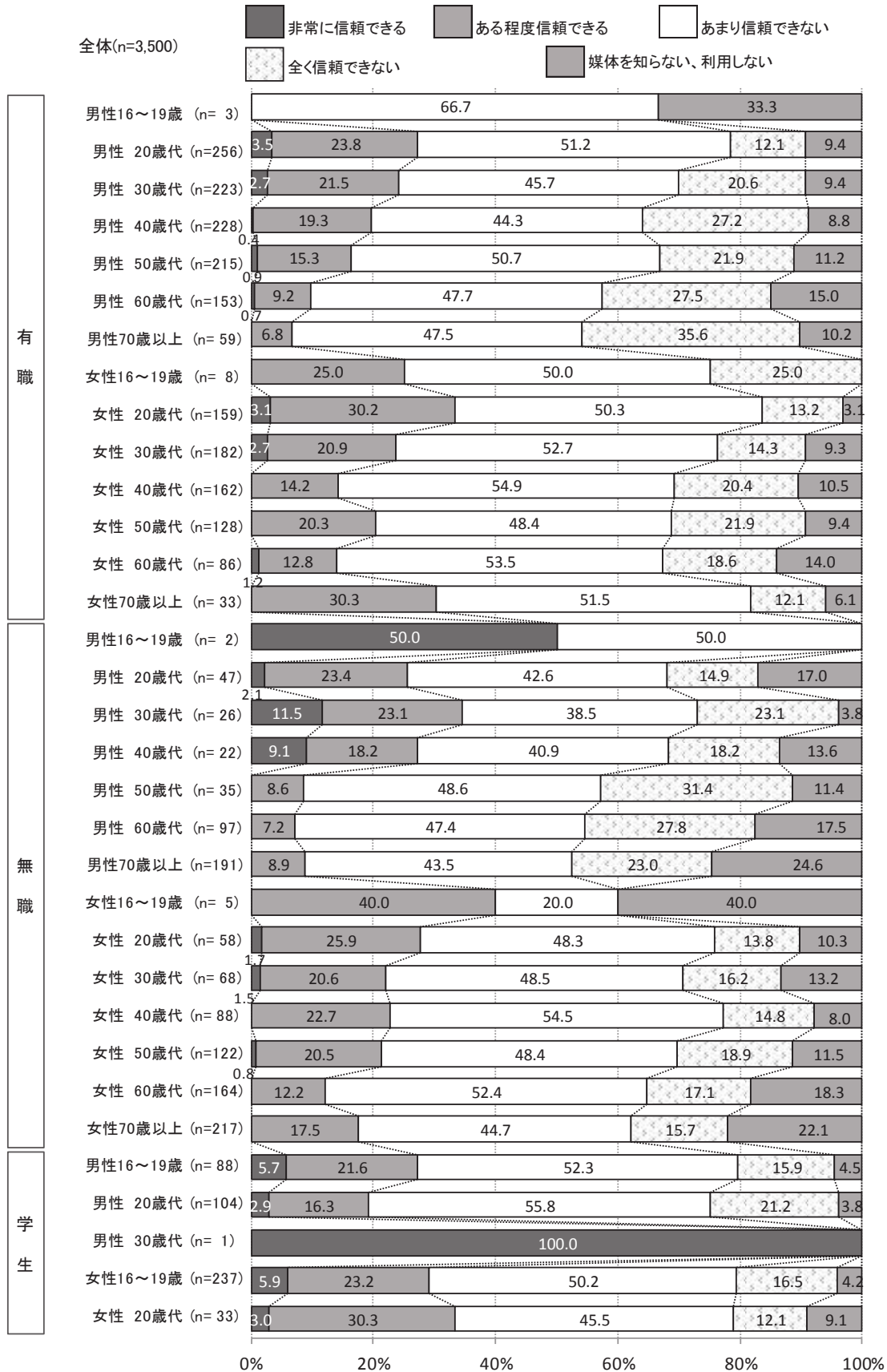


図12 各メディアの情報に対する信頼度/SNS 【性別・年齢別、職業別】(再掲)

